



## 年頭にあたりご挨拶

(一社) 岩手県測量設計業協会会長  
吉田久夫

新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、本県出身の大谷翔平選手が大活躍した年となり、3月のWBCでは投打での活躍により優勝に導いたほか、個人では2度目の満票によるMVPとホームラン王を獲得しました。年末にはメジャーリーグ史上最高額の契約を獲得する等、類のない存在となっております。菊池雄星投手は大リーグで自己最高の11勝をマークし活躍しました。また、国内に目を向ければ、阪神タイガースが38年ぶり球団史上2度目の日本一となり、猛虎ファンを熱狂させました。ドラフトでは読売ジャイアンツから1位指名を受けた西舘勇陽投手が花巻東の先輩を追って、今後、どんな活躍を見せるのか楽しみとなっております。

一方で、昨年も残念ながら新たな戦争が勃発した年となりました。イスラム組織ハマスとイスラエルの戦闘が激化し、入院患者など一般市民に多くの犠牲者がでております。イスラエルによる連日の激しい攻撃で死傷者のニュースが続いており、ウクライナ戦争が話題に上がらないほどの勢いです。ウクライナでの戦闘では、双方で陣地を固める地上戦となり、多くの兵隊の死傷者がでていますが、双方とも譲れない戦争となり、戦況は膠着状況に陥り長期化も予想されています。

ウクライナ戦争ではドローンによる攻撃が成果を上げて、革命が起きているとのことですが、我々測量業界の航空ドローンはレーザーを搭載して地形の形状を点群で計測をしているほか、橋梁点検では写真画像や動画により各種データ取得をしています。農業分野ではヘリコプターで行っていた農薬散布をドローンが行っているようです。水上ドローンは水路トンネルや港湾栈橋等の点検を担う機器となっております。ウクライナ戦争ではドローンで敵を監視することは基より、爆弾を搭載して戦車に体当たりするなど、特にロシアの戦車を多く損耗させているようです。また、水上ドローンは揚陸艇を撃沈させ、ロシアの黒海艦隊を退避させることにもつながりました。専門家からはドローンがこれまで大活躍した戦争はなく、戦術の変換点になっているとのことです。我々とすれば平和利用として使われることを望む次第です。

戦争や内紛の拡大長期化により、原油やエネルギー価格の高騰が続き、世界的に物価高によるインフレも顕著となっております。また、円安も相まって輸入品の値上がりも著しく、国民の生活は苦しさを増していると感じているところです。インフレに対抗すべく政府から賃上げ要求もありますが、思うように実施できないのが実情であります。ただし、訪日観光客にとっては格好の条件となり、コロナ前の盛況が戻ってきているようです。

さて、東日本大震災津波からは12年余りが経過し、県内の拠点を結ぶ広域道路ネットワークの整備も一段落したところですが、防災機能を強化する目的で、国による国道106号2工区16.9kmの高規格道路整備事業が進められております。県では新たに国道107号の白石峠工区の改築事業が進められています。海岸保全施設の復旧整備は残りが少なくなり、平成28年台風10号の復旧工事についても大詰めを迎えております。

昨年の県内の災害発生状況ですが、一昨年よりは件数が少なくなりましたが、県南と沿岸北部地区において県市町村合わせて90件程発生し、当協会としましても測量設計の協力をしております。

公共事業予算が縮減する中、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策は、対策期間の4年目分が閣議決定され、2兆円の事業費を確保した報道がなされています。これまでの累計で事業規模約9.8兆円に今回の補正予算案の計上額を加えると、事業規模は約11.8兆円となり、5年間で15兆円の予算に迫っております。順次、老朽化したインフラの補修・補強が進められ、予防保全型のインフラメンテナンスへの転換が進むものと思われまます。我々としては、今後期待できる事業の一つとなっております。

令和5年度から国においてはBIM/CIMによる3次元による測量設計が全面実施となっており、建設現場の生産性向上に向けたi-Constructionの推進が期待されております。県においてもBIM/CIMによる3次元測量設計を順次進めていく予定となっております。協会としても発注者の意向に沿えるよう研鑽をしているところです。ただし、3次元データを扱えるCADソフトについては何社かありますが、地質などを含めた統合モデルは少なく値段も高いということもあり、現在使用しているソフトと今後使用していくツールをどうするかは、慎重に見極める必要がある状況にあります。当協会としても情報共有により取り組みを進めていくほか、さらなる技術力向上に向け研修会も組織を挙げて取り組む所存です。

当協会としては、発注者の良きパートナーとなれるよう経営基盤を強化し、安定的な経営とワーク・ライフ・バランスを実行し、従業員の継続雇用を図り、若い担い手の確保・育成に全力で努めてまいります。特にも、我々の仕事が魅力的でやりがいを感じてもらうことが一番必要なことと感じておりますので、出前授業等を通して活動を続けていきます。次の時代のために人材を育て、技術継承を進めていくことが責務と認識をしているところです。関係の皆様には今後とも一層のご指導ご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶いたします。